

後藤新平 ごとう しんぺい 政治家。安政四年六月四日陸奥國水澤生れ、昭和四年四月十二日歿（八七—一九元）。號棲霞、藤原新平。須賀川醫學校卒。愛知縣病院院長兼愛知縣醫學校校長、内務省衛生局長を經く、明治二十一年臺灣總督府民政局長、次で民政長官となる。二十六年貴族院議員、二十九年滿鐵（南滿洲鐵道株式會社）初代總裁。その後遞信相、内相、外相を歴任し、鐵道院總裁を兼任。また對外積極政策を唱へ、シベリヤ出兵を強行するなどした。大正九年東京市長、十二年内相、帝都復興院總裁として關東大震災後の東京の復興に盡瘁。昭和二年訃としてスターリンに會見してゐる。伯爵。

著譯書 『後藤新平論集』（と石筋士編、明治四十四年一月八日伊藤元治郎刊、東京堂發賣）、『處世訓』（平木照雄編、再版、明治四十四年五月二十五日如山堂、如山堂 柳文舎）、『日本膨脹論』（大正五年二月十五日通俗大學會「通俗大學文庫」）、『パウルゼン著「政黨政策と道德」』（流譯、大正五年二月）、『通俗大學會「東京時論」』、『青年の力』（菊池曉汀編、大正八年十月十五日水野書店）、『自治の修養』（野中春洋編、大正八年九月一日東亞堂「袖珍名家文庫」）、『大調査機關設立の議』（大正九年五月二十日自刊）、『熱海と五名家』（合著、齋藤利堂編著、大正九年十二月二十日静岡・富永寛明刊、精和堂發賣）。

『日本植民政策一斑』（大正七年七月一日序、無刊記）、『英國育相官邸の姿鏡（續）』（大正十年九月八日序、無刊記）、『兵庫米倉相



官邸の姿鏡（譯、大正十一年五月二十五日大日本雄辯會）、『東京市政調査會專附、關する安田勤檢翁の意見』（大正十一年六月前序、無刊記）、『訓

誠和歌集』(保田光則選、大正十一年四月十五私家版)、館森鴻校訂『日露内

交渉の顛末』(大正十二年五月二十五日、無刊記)、『國家衛生原理

(二版)』(大正十二年八月二十八日自刊)、『日本膨脹論』(大正

十二年九月二十日大日本雄辯會)、『普選の備へよ』(二十版・大正

十五年六月一日普選準備會)、『政治の倫理化』(大正十五年九月一

十日大日本雄辯會)、『政治倫理化運動の一周年』(昭和二年六月十

六日政教社)、『義公生誕三百年記念講演集』(合著、昭和八年二月

十日茨城・義公生誕三百年記念會)等。

文獻、『茶花野人(山口四郎)著』『後藤新平論』(大正八年五月二十五

日統一社。再刊。十年十一月二十五日佐藤出版株式會社)、『岡本瓊』一

著『一世勳』後藤新平』(昭和四年五月十八日第一出版協會。再刊。一

十四日知進社)、『鐵道青年會編』『後藤伯の面影』(昭和四年八月十五

日鐵道青年會本部)、『稻葉君山著』『後藤新平伯と』『滿鐵歴史調査部』

(昭和十四年十一月十日奉天・南滿洲鐵道株式會社鐵道總局弘報課)、

『信天清二郎著』『後藤新平』『科學的政治家の生涯』(昭和十六年九月一

十日博文館)、『山内義文・正乃松太郎』講演『後藤伯翁追慕講演』(昭

十六年十一月讀賣新聞社)、『伊藤金次郎著』新領土『開拓』後藤新平』(昭和

十七年十一月十日昭知書房)、『澤田謙著』『後藤新平傳』(昭和十八年

七月十六日大日本雄辯會講談社)、『福田止義著』『後藤新平』(昭和十

八年八月十五日滿洲『新聞』東京支社出版部)、『高山晴行著』信念『後

藤新平』(昭和十九年一月二十日學藝社『學藝社文庫』)、『杉森久英

著』『大風百景』(昭和四十年十一月五日毎日新聞社)等。